

原爆に感じる思い

半田市立青山中学校 3年 松本音々



参加しようと思った理由

私は歴史を絵に表し、人に伝えることをしています。今回私がこの貴重な体験をしたいと思ったのは、人に物事を忠実に伝えるためにはやはり本物を見ることが大切だと思ったからです。いくらインターネットで調べてもわからないことがあり限度があると思います。そこで、私はできるだけ早く本物を見てみたい、早く昔の人々の気持ちを知りたいと思い参加しました。

本物

原爆の爆発で崩れ落ちた瓦礫、今にも落ちそうな壁、丸裸で折れ曲がった鉄骨。実物は写真で見ると迫力があり、全てがあの原爆からの被害だと考えると想像もできないぐらいの悲惨さだと思いました。広島平和記念資料館には、原爆の被害にあった人達の服や絵、言葉が展示されていました。服は、ただの布切れのように変わり果てた物やまだ形を保っているが血で汚れている物がありました。被爆した人を見た人たちが描いた絵には、被害に遭いたくさんの怪我を負った人がどれも赤く黒く塗られていて、火事から逃げている人やたくさん積まれた人の死体が描かれていました。展示されていた言葉には、皮膚が垂れ下がっていると書かれており、恐怖を感じました。現代では絶対に見られないものがたくさん見られ、とても貴重な体験になりました。

平和ツアーを終えて

今回このツアーに行き、考え方が変わりました。戦争のニュースが流れてきても、今までは適当に聞き流していましたが、今はたくさんの悲しい思いが溢れてきて、戦争を始めた人たちに悔しい気持ちをより抱くようになりました。